

令和4年6月1日

「モリング環境プロジェクト」取組の目的・意義

始めに

人は自然界を破壊し富と豊かさを手に入れてきました。

人間が経済一辺倒で地球を犠牲にしてこれまでやってきた事は今人間の生活の危機を生もうとしています。

今地球は自然を犠牲にした豊かさに警鐘を鳴らしています。地球温暖化は更なる未知のウィルスを発生させ、さまざまな気象変動が経済活動だけでなく人間の生活まで奪っていくかも知れません。

温暖化対策には技術開発による排出量の低減と共に、自然界による吸収力の向上が重要です。工業的なCO₂削減技術ですら何らかの工程でCO₂を排出しており人の排出量までも止めることは出来ません。CO₂を吸収する事が出来るものの一つは自然界であり、その中で人の営みを通してできる事は農業であり林業です。そして自然界にこそ唯一持続可能な環境エネルギーが存在する事を人々は自然に学ばなければなりません。

今人々が経済活動を止める事はできません。又、全ての地球人が農業・林業を営むことも出来ません。出来ることは排出量削減での技術開発と、自然を取り戻す活動によるCO₂の吸収です。これからの経済発展は自然を守り育てながら自然との共存が求められます。

温暖化は待ってくれません。今すぐ当事者として一人一人が行動を起こさなければ地球は人類を救う事の出来ない惑星になるかも知れません。

環境活動を広めていくには一人一人が環境に対する当事者の認識が必要です。

世界は科学的根拠に基づきカーボンニュートラルの目標期限を決めています。

2030年日本は46%削減、2050年カーボンニュートラルを掲げていますが、日本人の環境、特に温暖化への取組意識は非常に低いと言わざるを得ません。

モリング環境プロジェクトの会員は微力ながらモリングの力を生かし具体的な策を実施し形にする事を目指したいと考えています。

プロジェクトの経緯

昨今、世界では異常気象により多くの災害に見舞われています。

この度「岡山県瀬戸内産のモリンガ」の本格栽培を機にモリンガを活用した環境活動を行う意義を感じ、今回“自然を守り地球を守りたい”思いから「モリンガ環境プロジェクト」(MEP)を立ち上げました(M=モリンガ、E=環境、P=プロジェクト)

目的

モリンガの栽培拡張による環境CO2の低減と健康、産業の促進を目的とします。

国連気候変動政府間パネル(IPCC)によって人間の営みが地球温暖化を引き起こしているという科学的根拠が明白になった今、将来に向けモリンガの持つ素晴らし力を生かし環境・健康・産業を守ると共にSDGsへの貢献に向け3.5%の力の一助としていきたい。

(SDGs / 2・3・13・14・15)



モリンガ（岡山県瀬戸内産のモリンガ）の期待される主な波及効果

自然環境面

- 1、通常樹木の数十倍のCO2吸収力とされる植樹による地球温暖化対策の一助。
- 2、無農薬、化学肥料不使用栽培による川・沼の水質改善と海洋プラスチック汚染保護。
- 3、無農薬、化学肥料不使用により農薬化学肥料メーカーにおけるCO2排出量の低減。
- 4、浄化作用力による土壌の改善。
- 5、気候変動による干ばつや水不足・バーチャルウォーターなどに寄与貢献。

健康面

- 1、人の必要とする90種の栄養素と通常の数倍の栄養価により人々の健康に寄与。
- 2、300種類と言われる薬効による人々の様々な病気や健康に寄与。
- 3、国連WFPも推奨、気候変動、紛争等による食料不足や飢餓に栄養面で貢献。

産業面

- 1、高齢化により増加する耕作放棄地の活用により農業の活性化に繋がる
- 2、国内の食料自給率の改善と今後の輸入価格高騰や食糧難に対応
- 3、近年の長雨・熱波・台風などにも強く気候変動に対する農産物の安定供給が図れる。
- 4、A型事業所、B型事業所など福祉サービス事業者の利用者の方の就労支援。
- 5、モリンガの栽培商品化による消費活動が、産業の活性化と合わせ温暖化対策になる。

6、モリンガの有効利用により、資源有効利用・持続可能な社会の実現が期待できる。

この様にモリンガを栽培し製品として販売し消費者が利用する事により、結果農業を含む地域産業の活性化と共に自然、環境、健康ひいては産業を守る事にも繋がり自然環境エネルギーとして CO2 地球環境・SDGs への貢献も期待されます。その意味でモリンガはこれからの農産物として未来に非常に大きな可能性を持っています。



備考 MEP=モリンガ環境プロジェクト

HH =ヒューマン・ヘルス株式会社

3.5%の力=ハーバード大学「社会の3.5%の人が本気で立ち上がると社

会

は大きく変わる」という理論

「モリンガ環境プロジェクト」の概要

1、プロジェクトの位置付け

- (1)当面は任意団体とし、事務局をヒューマン・ヘルス株式会社に設けます。
- (2)プロジェクトは非営利活動（NPO）を基本とし、利益はプロジェクトの目的遂行並びに発展の為に使われ、運営は参加者の活動によって賄われます
- (3)運営費は「会員寄付金」及び「HHからの取扱寄付金」で賄われます。

主たる運営コスト：人件費（基本的にはボランティアを奨励します）、種子購入費
管理費、税理士費、雑費、活動費、会員サポート経費
将来海外栽培も含めプロジェクトを発展させる為の費用等

- (4)入会金・会費： 無料
- (5)寄付金： 第1期目標額：10,000千円

2、プロジェクトの目標

「モリンガ栽培⇨製品化⇨製品の販売⇨健康+産業+環境 SDGs への貢献」
モリンガ植樹目標 100万本（CO2吸収量換算＝1億6千万kg／累計）
栽培面積 70万m²（約700反）／必要に応じて海外も含む
栽培地 原則耕作放棄地を優先して活用
目標年度 2030年12月
利用方法 6次化による環境・健康・産業面での貢献及び食糧支援

3、プロジェクトの参加条件

- (1)プロジェクトの主旨目的を理解して頂き、「モリンガ環境プロジェクト」の目的や意義に共感して頂くと共に、一緒に差し迫った地球環境問題に自ら貢献しようとする意欲を持った個人・企業の方
- (2)「モリンガ環境プロジェクト」推進に向けた栽培並びに製品の販売を一緒になって協力頂ける個人・企業の方
- (3)反社会勢力並びにそれに準ずる方に該当しない方及びその関係者にも該当しない方

4、プロジェクトチーム会員の構成と役割

プロジェクトの主旨目的に沿ってモリンガ栽培及びプロジェクトのサポートが出来る下記の就農事業者・企業・個人・大学・その他これらに準ずる方

就農事業者 （モリンガを栽培する企業・A・B事業所・農業法人・農業従事者）
一般企業 （モリンガを栽培しない一般企業や農業従事者）
個人 （一般個人）
大学 （栽培及び付加価値製品化に関する研究開発での支援）
行政 （行政上での支援）

5、個人会員の役割と取り決め事項

①入会（無料）

MEP

↓ 各種概要・会員規約確認

MEP 会員

入会申込書→「会員証+シンボルシール」授与 希望特別会員→HP (HH)・インスタ・メディア掲載

会員活動 「CO2をはじめとした地球環境保護活動」

①会員紹介・環境プロジェクトの広報普及活動（口コミ・SNS）

②モリンガ栽培拡大に向けたモリンガ商品の定期購入

HHは会員へ「税抜購入額×10%」を還元寄付します

○会員は還元寄付金の「受領（手数料込）」又は「寄付」を選択

○PayPay 決済振込の場合・・・毎回 PayPay で送金

○上記以外の場合・・・・・・月末締め翌月 15 日振込、但し

振込手数料以下の場合翌月に持越し

*会員は購入に当たり必ず「会員」「受領・寄付区分」「振込口座」を記載ください。

②寄付金（環境投資）

MEP 会員

1 口 3,000 円以上

6、就農事業者・一般企業・大学・行政の役割と取り決め事項

訪問の上ご説明させていただきますので HP 又は電話・メールにてご連絡ください。

TEL. : 080-2888-5604

E-mail : simizuy6@gmail.com

7、プロジェクト付帯事業

(1)年1回 4月に MEP の収支報告会・講習会を開催します。

(2)農業従事者への栽培指導並びにメール等での情報共有を行います。

(3)各就農事業者様への現地見学会を行います。（コロナ収束後）

(4)中学・高校・大学への講演活動を通じて若年層の参加を募ります。

(5)可能な限り TV 取材等を受けプロジェクト活動を社会にアピールします。

(6)下記特別会員は希望に応じて HP・SNS 等で掲載させていただきます。

(7)寄付金募集活動について

① 1 万円以上の寄付を頂いた方は「特別会員」にさせて頂き「モリンガ環境

プロジェクト」から寄付額に応じモリンガ製品を返礼します。（約 3 割）

②寄付は毎年1回を基本とします。

参考事項

*CO₂ 排出量参考値 (モリンガ1本年間吸収量=80~160kg)

○人の年間二酸化炭素排出量 320 kg =モリンガ2~4本で年間吸収

○車1台年間 〃 排出量 2,300 kg =モリンガ15~30本で年間吸収

○一般家庭年間 〃 排出量 4,480 kg =モリンガ30~60本で年間吸収

*寄付金額の試算基準 (一人CO₂ 排出量吸収分のモリンガ樹木相当製品換算額)

○年間 320kg ÷ 160kg /本 =2本

○2本のモリンガ製品換算額=3,072円

(注:上記は2本の場合の試算ですが、日本では冬育たない為4本であれば確実です。

又、上記参考事項はあくまで通説での参考です。)

新版 2021年10月1日

改訂 2022年2月1日

改訂 2022年4月1日

改訂 2022年6月1日